



「ココロも満タンに」

「ずっと地球で暮らそう。」プロジェクトの一つとして、
コスモ石油エコカード基金では、次の世代に豊かな地球を繋いでいきたいとの思いから、
小学校の環境教育を支援しています。
この写真は、2003年、長野県三水村の棚田で行った環境教育プログラムの1コマです。

あらゆるステークホルダーの未来価値を創造し、 信頼される企業、選んでいただける企業であることを目指します。

- ① 企業倫理の推進を図り、より社会から信頼される企業を目指します。
- ② ステークホルダーとのかかわりの中で、未来価値の創造に努めます。
- ③ 積極的に情報を開示し、双方向コミュニケーションを実践していきます。

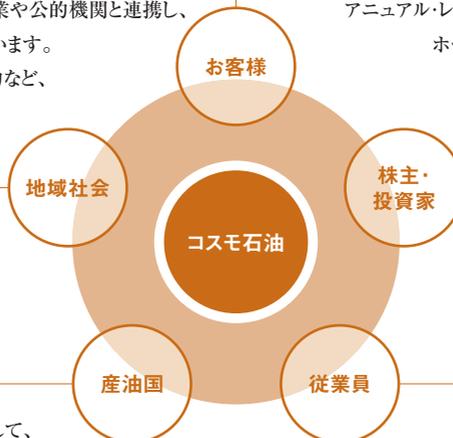
ステークホルダーとのかかわり

コスモ石油を支えるステークホルダーの皆さまから信頼され、存続を期待される企業であり続けられるよう、事業活動を通じて価値を提供するとともに、積極的な情報開示と双方向コミュニケーションに努めています。

あらゆるお客様に愛されるコスモネットワークを目指し、
お客様の声を聞きながら、サービスレベルの向上や安全の確保など、
価値あるサービスの提供に取り組んでいます。

地域社会を構成する一員として、
例えば製油所ではコンビナート近隣の企業や公的機関と連携し、
地域防災のための共同体制を構築しています。
また、周辺の清掃や地域イベントへの協力など、
地域の一員としての草の根活動を
推進しています。

年4回の株主通信「シーズ・メール」や、
アニュアル・レポート、ファクトブックなどを発行するとともに、
ホームページでの情報開示を充実させるなど、
積極的なIR活動を展開しています。



深いつながりのあるビジネスパートナーとして、
原油売買のみならず、
産油国においても当グループの人材や技術を活用し、
環境保全や安全管理の技術普及などに取り組んでいます。
人材交流や文化交流活動も行っています。

企業活動の基本に人権尊重をすえ、
安全で働きやすいことはもちろん、自己実現のフィールドとして
より魅力のある職場づくりに努めています。

社会から信頼される企業であるために

コスモ石油グループでは、信頼される企業グループであるために、より高い倫理観を持ち、コンプライアンスの徹底やリスク管理、情報開示などに積極的に取り組んでいます。同時に透明で明確な意思決定、業務執行体制の構築を図っています。

企業倫理の徹底

倫理観の高い企業であることを目指して、「コスモ石油グループ経営理念」および「コスモ石油グループ企業倫理規程(企業行動指針)」の維持・推進を図るため、取締役会に直結する「企業倫理委員会」(委員長:コスモ石油社長)が中心となり、毎年、方針や実行計画を策定し、経営層によるチェック&レビューを行っています。また、行動指針は日本語だけでなく、英語訳やアラビア語訳も用意しています。 **参照** データブックp2(コスモ石油グループ企業行動指針)

全グループ員のコンプライアンスに対する意識や、倫理観の維持・向上は、一人ひとりの意識、モラルによって支えられています。コスモ石油グループでは、コスモ石油の各事業所、およびグループ会社に企業倫理推進責任者を置き、日々の推進徹底を図るほか、企業倫理推進室が、次のような取り組みを通し、従業員へコンプライアンスの浸透強化を図っています。

- 経営理念カード(名刺サイズ)の配付と携帯の指導
- 企業倫理推進責任者に対する説明会の実施
- 従業員に対する研修の実施 **参照** データブックp17
- 浸透度チェックのためのアンケート(2004年3月実施)

また、日常業務において法律、または倫理上の問題に直面したときのために、相談窓口(ヘルプライン)を設けています。相談という行為が相談者の不利益にならないよう、社内規程により保護されています。

透明性の高い経営体制の確立

コスモ石油グループでは、すべてのステークホルダーの価値向上を目指し、経営の透明性・効率性の向上、迅速な業務執行、リスクマネジメント、およびコンプライアンスの徹底を図るための企業統治(コーポレートガバナンス)を推進しています。

【企業統治体制】

経営上の意思決定、執行および監督にかかわる機関制度については、取締役会を最高意思決定機関とし、社長の諮問機関として経営執行会議を設置しています。また、株主総会で任命される監査役会が監査を実施し業務執行と経営の監督の分離を図っています。さらに、経営者(役員)の人事や報酬に関して、評価・選考会議を設置し、透明性の確保に努めています。

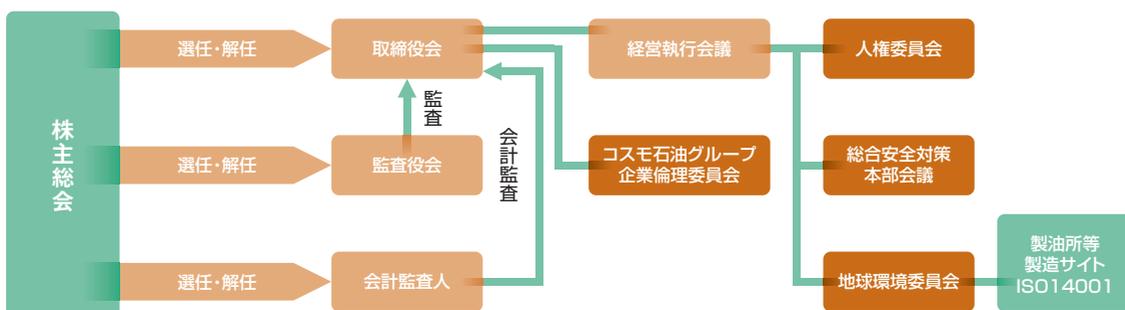
【社会的責任経営の推進体制】

これまで、個々に展開されていた社会的責任を果たすための取り組みについて、2004年4月から、社会的責任を統括する部署を設置し、グループ横断的な推進体制を整備し、責任の明確化や取り組みのスパイラルアップを図っています。企業倫理、環境、安全、人権の4分野について、経営に直結する委員会を設置しています。

【リスクマネジメント体制】

事業活動に伴うリスクを最小化し、問題の発生を未然に防止することは、安定した経営を継続するうえで基本的な要件です。当社では2003年度から全事業活動について毎年リスクの洗い出しからスタートするPDCAサイクルをスタートさせました。進捗状況は監査室が監査し、経営に報告されています。

【経営体制】



社会的重要事項について

コスモ石油グループでは社会的責任を果たし、社会との調和と共生することを目指してコンプライアンスの徹底や企業活動の透明性の向上に取り組んでおりますが、残念ながら、社会不安を引き起こす事件が発生しました。原因究明を進めるとともに、全グループ員の意識改革や、必要に応じた設備対応などの対策を講じ、再発防止に努めてまいります。

【コスモ・ザ・カード個人情報流出について】

●個人情報流出

2004年4月8日、コスモ石油が発行するクレジットカード「コスモ・ザ・カード」の個人情報が流出している可能性についてのお問い合わせがありました。お客様のお手元に、会員登録や変更の際に名前、住所等に使用された特有の文字や表現と同じ文字や表現が使われた、不審なダイレクトメールが届いたためです。

調査の結果、システム開発のためあらかじめ抽出された会員データ（最大923,239件）を格納する特定サーバからデータがダウンロードされていた痕跡が発見され、923,239件、ないしはその一部の会員個人情報の一部が流出した可能性が極めて高いと判断しました。

●発生時の対応

お客様からのお問い合わせを受け、4月13日に危機対策規程に基づき対策本部を設置し、専門の不正調査サービス会社の協力、警察当局からの指導の下、調査を開始いたしました。また、架空請求等のダイレクトメールがお客様に及ぼす不安や影響を鑑み、個人情報流出の有無の確認に至らない段階で記者会見を行うとともに、謹告を新聞紙上に掲載し、ホームページやダイレクトメール等を通じてカードホルダーの皆さまに架空請求などへの注意の呼びかけをさせていただきました。

●今後の再発防止策

コスモ石油では、個人情報保護法の法制化に先立ち、2003年度から個人情報推進体制を整備し、個人情報保護方針、プライバシーポリシー、個人情報保護規程を制定する準備を進め、2004年4月1日より運用を開始したところでした。

この事態を重く受け止め、個人情報管理推進責任者（総務部担当役員）の指揮の下で、全事業所・グループ会社を対象とする巡回説明会の実施や、直接的な指導により、個人情報保護方針、プライバシーポリシーおよび個人情報保護規程の重要性の認識浸透と厳格な運用・管理の徹底を、再度図ってまいります。

同時に、入退室管理の強化や一部レイアウトの変更、監視カメラによる24時間監視体制の構築などの設備的対策を講じるとともに、技術的対策として生体認証システムを含む高度なセキュリティシステムの導入を進めております。

また、委託先から個人情報が流出した可能性が極めて高いことを重大に捉え、運用・管理の徹底のほか、情報システム部を新設し委託先管理の強化を図っております。

今後も、コスモ石油グループ全体でコンプライアンスの意識の徹底と、体制の高度化を図り、再発防止に努めてまいります。

【防衛庁石油製品納入独占禁止法違反疑義について】

●独占禁止法違反疑義

1999年11月9日、防衛庁調達実施本部向けに石油元売各社が納入していた石油製品の入札につき、独占禁止法違反の疑義ありとして刑事告発が行われました。

コスモ石油は、調達実施本部の当時のルールに則った入札と、弊社の対応の正当性を法廷で訴えてまいりましたが、4年以上にわたる異例な長期の審議を経て、2004年3月24日、東京高裁より有罪判決が下されました。

●判決に対する対応

本判決を真摯に捉え、疑義を受ける行為を行わないよう、説明会や研修等を通じ、グループ全体に透明性向上の徹底を図るとともに、判決に対しては弊社の主張に対して再度公正な判断を仰ぐ必要があると判断し、最高裁に上告しております。